

「第2期岐阜県歯・口腔の健康づくり計画」目標達成の状況

- 第2期計画では、6つのライフステージ等に対して、「健康」「行動」「意識」「環境」の4つの具体的な目標を66項目設定しています。
- 第2期計画の策定時値（平成23年度）から現状値（平成28年度）における進捗について、取組が順調と評価されるA評価及びB評価の割合は、40.9%（A評価）、9.1%（B評価）となっています。
また、引き続き、努力を要するとされるC及びD評価の割合は、15.1%（C評価）、34.9%（D評価）となっています。

1. 評価の方法

<p>評価</p> <p>A：全体的に順調 75%～</p> <p>B：概ね順調 50%～74.9%</p> <p>C：一部努力を要する 25%～49.9%</p> <p>D：全体的に努力を要する ～24.9%</p>	<p>達成率の計算方法</p> $\frac{\text{最新値} - \text{策定時値}}{\text{目標値} - \text{策定時値}} \times 100$
--	---

2. 目標達成の状況

ライフステージ等	項目数	評価			
		A	B	C	D
乳幼児期（0歳から5歳）	11	4	0	3	4
学齢期（6歳から19歳）	13	4	2	2	5
成人期（妊産婦を含む）（20歳から59歳）	20	8	2	4	6
高齢期（概ね60歳以上）	15	9	2	1	3
要介護者	5	2	0	0	3
障がい児（者）	2	0	0	0	2
計	66	27	6	10	23
割合（各評価）		40.9%	9.1%	15.1%	34.9%

3. 歯科疾患の予防及び口腔機能の維持・向上における目標の達成状況

- (1) 乳幼児期（0歳から5歳） 2
- (2) 学齢期（6歳から19歳） 3
- (3) 成人期（妊産婦を含む）（20歳から59歳） 4
- (4) 高齢期（概ね60歳以上） 5

4. 歯科受診困難者に対する歯科口腔保健目標の達成状況

- (1) 要介護者 6
- (2) 障がい児（者） 6

3. 歯科疾患の予防及び口腔機能の維持・向上における目標の達成状況

(1) 乳幼児期 (0歳から5歳)

基本的な計画事項・現状・課題

基本的な計画事項	健全な歯・口腔の育成や口腔機能の獲得のための事業等を進めます。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児でう蝕のない者は、大幅に改善し、23年度 85.4%と全国値 77.1%※と比べ高くなっています。 ・3歳児で不正咬合等が認められる者は、23年度 9.6%となっています。 <p style="text-align: right;">※全国値 H21:3歳児歯科健康診査</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・う蝕予防のため、その原因や予防方法の知識の普及啓発及び歯科保健指導等の取組が必要です。 ・う蝕リスク者への取組や環境整備により、生活習慣が改善できるう蝕予防の取組が必要です。 ・口腔機能の獲得のため、口腔・顎・顔面の成長発育や適切な口腔機能の獲得のため、口腔機能の育成への取組が必要です。

目標の達成状況

項目	策定時 (H23)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
【健康】				
3歳児でう蝕のない者の増加	85.4%	90%以上	87.3% (H27)	C
3歳児で不正咬合等が認められる者の減少	9.6%	8.5%以下	11.7% (H27)	D
【行動】				
3歳児でフッ化物歯面塗布を受けたことがある者の増加	78.6%	80%以上	82.3%	A
1歳6か月児で間食として甘味食品飲料を飲食する習慣を持つ者の減少	7.6%	5%以下	6.5%	C
【環境】				
フッ化物歯面塗布を実施する市町村の増加 (3歳以前)	88.1%	100%	76.2% (H27)	D
幼児歯科検診後のフォロー事業※を実施する市町村の増加 (3歳以前)	88.1%	100%	40.5% (H27)	D
子どもの親への歯科保健指導を実施する市町村の増加 (3歳以前)	100%	100%	95.2% (H27)	D
よく噛んで食べることに取り組む市町村の増加 (3歳以前)	未調査	50%以上	76.2% (H27)	A
フッ化物洗口を実施する施設 (保育園・幼稚園) の増加	76/623 施設	90 施設以上	84 施設	A
昼食後の歯口清掃を実施する施設 (保育園・幼稚園) の増加	90.6%	95%以上	91.9%	C
よく噛んで食べることに取り組む施設 (保育園・幼稚園) の増加	未調査	80%以上	86.3%	A

※フォロー事業：健診後、定期的に歯科保健指導やフッ化物歯面塗布を受けること。

(2) 学齡期 (6 歳から 19 歳)

基本的な計画事項・現状・課題

基本的な計画事項	口腔保健状態の向上や口腔機能の育成、獲得のための事業を進めます。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・12 歳児で 1 人平均永久歯う歯数は減少傾向にあり、23 年度 0.90 本と、全国値 1.20 本*に比べて低い値となっています。 ・12 歳児で歯肉に炎症所見のある者は、22 年度 25.4%と、全国値 25.7%*とほぼ同様の値となっています。 <p style="text-align: right;">※全国値:H23 学校歯科保健統計調査</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・う蝕や歯周病予防のため、それらの原因や予防方法の知識の普及啓発及び食生活等の歯科保健指導等の取組が必要です。 ・う蝕リスク者への取組や環境整備等により、生活習慣が改善できるよう、う蝕や歯周病予防の取組が必要です。 ・口腔・顎・顔面の成長発育や適切な口腔機能の獲得のため、口腔機能の育成への取組が必要です。

目標の達成状況

項目	策定時 (H23)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
【健康】				
12 歳児で 1 人平均永久歯う歯数の減少	0.90 歯	0.70 歯以下	0.53 歯	A
12 歳児でう蝕のない者の増加	60.5%	65%以上	73.7%	A
12 歳児で歯肉に炎症所見のある者の減少	25.4% (H22)	20%以下	23.3%	C
15 歳児で歯肉に炎症所見のある者の減少	22.9% (H22)	18%以下	25.6%	D
12 歳児で不整咬合等が認められる者の減少	21.9% (H22)	18%以下	22.8%	D
【行動】				
11 歳児で家庭でフッ化物配合歯磨剤を使用する者の増加	68.4%	90%以上	80.9%	B
11 歳児で専門家による個別的な歯口清掃指導を受ける者の増加	60.2%	70%以上	59.6%	D
11 歳児で自分で歯によい間食を選べる者の増加	36.6% (H24)	60%以上	33.5%	D
11 歳児で歯間部清掃用具（デンタルフロス）の使い方や効果を知って使用できる者の増加	52.4% (H24)	80%以上	26.3%	D
15 歳児で専門家による個別的な歯口清掃指導を受ける者の増加	未調査	50%以上	22.9%	C
【環境】				
フッ化物洗口を実施する学校施設の増加(小・中学校)	119/562 施設	130 施設 以上	171 施設	A
昼食後の歯口清掃を実施する学校施設の増加(小・中学校)	79.3%	90%以上	85.9%	B
よく噛んで食べることに取り組む学校施設の増加(小・中学校)	未調査	80%以上	67.7%	A

(3) 成人期（妊産婦を含む）（20 歳から 59 歳）

基本的な計画事項・現状・課題

基本的な計画事項	健全な口腔保健状態の維持や口腔機能の維持・向上、口腔がん把握のための事業を進めます。
現状	進行した歯周病（4mm 以上のポケット）を有する者は、40 歳 45.0%*、50 歳 57.0%*となっています。 ※県成人歯科疾患実態調査（調査対象は歯科診療所受診者、約 3000 人）
課題	<ul style="list-style-type: none"> 歯周病予防のため、その原因や予防方法の知識の普及啓発、歯科保健指導等の取組が必要です。 う蝕及び歯周病のリスク者への取組みや環境の整備等により、生活習慣の改善（禁煙等）のための取組が必要です。 口腔機能の維持・向上に関する取組が必要です。

目標の達成状況

項目	策定時 (H23)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
【健康】				
30 歳代で歯周病（4 ミリ以上のポケット）を有する者の減少	35.6%	30%以下	49.9%	D
40 歳代で歯周病（4 ミリ以上のポケット）を有する者の減少	45.0%	40%以下	63.9%	D
50 歳代で歯周病（4 ミリ以上のポケット）を有する者の減少	57.0%	50%以下	70.1%	D
【行動】				
40 歳で歯間部清掃用具（デンタルフロス、歯間ブラシ）を使用する者の増加	50.6%	70%以上	57.2%	C
50 歳で歯間部清掃用具（デンタルフロス、歯間ブラシ）を使用する者の増加	53.8%	70%以上	61.1%	C
月 1 回以上は歯や歯肉をセルフチェックする者の増加	未調査	70%以上	29.4%	C
40 歳で定期的に歯石除去や歯面清掃を受ける者の増加	51.1%	55%以上	58.1%	A
50 歳で定期的に歯石除去や歯面清掃を受ける者の増加	57.4%	60%以上	61.1%	A
40 歳で定期的に歯科検診を受ける者の増加	48.3%	55%以上	57.8%	A
50 歳で定期的に歯科検診を受ける者の増加	53.2%	55%以上	60.6%	A
妊娠中に歯科検診を受ける者の増加（妊産婦）	45.3%	50%以上	54.1%	A
妊娠中に歯科保健指導を受ける者の増加（妊産婦）	31.5%	50%以上	34.2%	D
【意識】				
かかりつけ歯科医を決めている者の増加	未調査	95%以上	87.0%	A
喫煙と歯周病との関係を知っている者の増加	未調査	100%	77.8%	A
8020 運動を知っている者の増加	未調査	100%	60.8%	B
【環境】				
歯周病検診実施市町村の増加	未調査	100%	100.0%	A
市町村での歯周病検診受診率の増加	未調査	10%以上	6.5% (H27)	B
周術期*における口腔機能管理（口腔ケアを含む）を実施する歯科医療機関の増加	未調査 (41 施設)	増加	40 施設	D
妊産婦で歯科検診を実施する市町村の増加	78.6%	100%	85.7% (H27)	C
妊産婦で歯科保健指導を実施する市町村の増加	85.7%	100%	76.2% (H27)	D

※周術期：がん等の治療で入院前から退院後までの期間のこと。

(4) 高齢期（概ね 60 歳以上）

基本的な計画事項・現状・課題

基本的な計画事項	歯の喪失防止や口腔機能の維持・向上を図るための事業を進めます。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60 歳で 24 歯以上自分の歯を有する者は、23 年度 64.0%[*]と増加傾向にあります。 ・ 80 歳で 20 歯以上自分の歯を有する者は、23 年度 50.6%[*]と増加傾向にあります。 <p style="text-align: center;">※県成人歯科疾患実態調査（調査対象は歯科診療所受診者、約 3000 人）</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ う蝕及び歯周病予防のため、その原因や予防方法の知識の普及啓発、歯科保健指導の取組が必要です。 ・ う蝕及び歯周病のリスク者への取組や環境の整備等により、生活習慣の改善、歯の喪失防止のための取組が必要です。 ・ 口腔機能の低下予防のため、口腔機能訓練等の指導の取組が必要です。歯科受診の困難者である要介護者の歯科疾患の予防のため、定期的な歯科検診・歯科保健指導等の推進が必要です。

目標の達成状況

項目	策定時 (H23)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
【健康】				
60 歳で 24 歯以上自分の歯を有する者の増加	64.0%	70%以上	74.0%	A
80 歳で 20 歯以上自分の歯を有する者の増加	50.6%	55%以上	54.2%	A
【行動】				
月 1 回以上は歯や歯肉をセルフチェックする者の増加	未調査	70%以上	31.8%	C
60 歳で定期的に歯石除去や歯面清掃を受ける者の増加	61.8%	65%以上	67.0%	A
70 歳で定期的に歯石除去や歯面清掃を受ける者の増加	63.6%	70%以上	70.2%	A
60 歳で定期的に歯科検診を受ける者の増加	60.1%	63%以上	64.8%	A
70 歳で定期的に歯科検診を受ける者の増加	64.3%	65%以上	69.9%	A
【意識】				
かかりつけ歯科医を決めている者の増加	未調査	95%以上	94.7%	A
喫煙と歯周病との関係を知っている者の増加	未調査	100%	62.3%	B
8020 運動を知っている者の増加	未調査	100%	62.5%	B
60 歳で噛むことに満足している者の増加	64.0%	70%以上	62.1%	D
80 歳で噛むことに満足している者の増加	59.2%	70%以上	58.6%	D
【環境】				
歯周病検診実施市町村の増加	未調査	100%	100.0%	A
市町村での歯周病検診受診率の増加	未調査	10%以上	7.9% (H27)	A
周術期における口腔機能管理（口腔ケアを含む）を実施する歯科医療機関の増加	未調査 (41 施設)	増加	40 施設	D

4. 歯科受診困難者に対する歯科口腔保健目標の達成状況

(1) 要介護者

基本的な計画事項・現状・課題

基本的な計画事項	定期的な歯科検診・歯科保健指導や歯科医療・介護サービス推進のための事業を進めます。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上は歯科検診を実施する要介護施設は37.2%と全国値19.2%*より高くなっています。 ・年に1回以上は歯科保健指導を実施する要介護施設は46.9%となっています。 <small>※全国値：H23厚生科学研究「歯科保健の推進に関する総合研究」</small>
課題	歯科受診の困難者である要介護者の歯科疾患の予防のため、定期的な歯科検診・歯科保健指導等の推進が必要です。

目標の達成状況

項目	策定時 (H23)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
【意識】				
口腔ケアの重要性を知っている要介護高齢者入所施設の増加	98.6%	100%	100%	A
【環境】				
年1回以上は歯科検診を実施する要介護高齢者入所施設の増加	37.2%	50%以上	30.3%	D
年1回以上は歯科保健指導を実施する要介護高齢者入所施設の増加	46.9%	60%以上	39.3%	D
訪問歯科診療を実施している医療機関数の増加	647施設 (H24)	増加	643施設	D
訪問歯科衛生指導を実施している医療機関数の増加	414施設 (H24)	増加	427施設	A

(2) 障がい児（者）

基本的な計画事項・現状・課題

基本的な計画事項	定期的な歯科検診・歯科保健指導、歯科医療体制の整備等を進めます。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上は歯科検診を実施する心身障がい児（者）施設は、76.7%と全国値66.9%*より高くなっています。 ・年に1回以上は歯科保健指導を実施する心身障がい児（者）施設は、72.1%となっています。 <small>※全国値：H23厚生科学研究「歯科口腔保健の推進に関する総合研究」</small>
課題	歯科受診の困難者である障がい児（者）の歯科疾患の予防のため、定期的な歯科検診・歯科保健指導等の推進が必要です

目標の達成状況

目標項目	策定時 (H23)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
【環境】				
年1回以上は歯科検診を実施する心身障がい児（者）施設の増加	76.7%	90%以上	77.1%	D
年1回以上は歯科保健指導を実施する心身障がい児（者）施設の増加	72.1%	90%以上	65.7%	D